



羽田空港

WEATHER TOPICS



定期号

通巻 第 5号

2011年(平成23年)

2月23日

発行

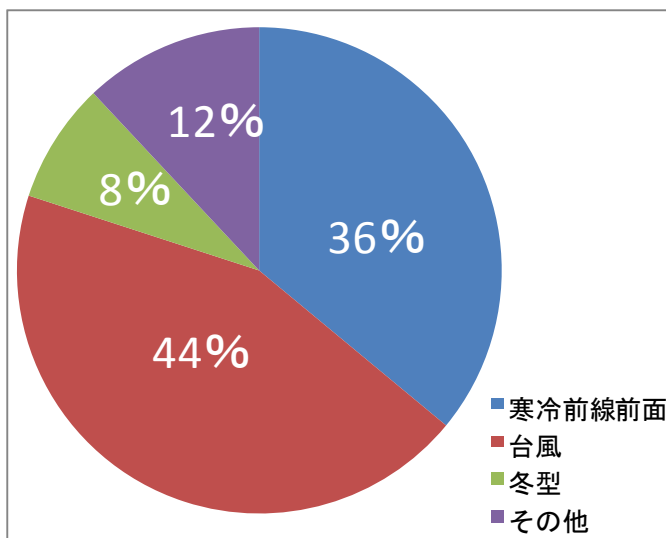
東京航空地方气象台

羽田空港の南西強風について

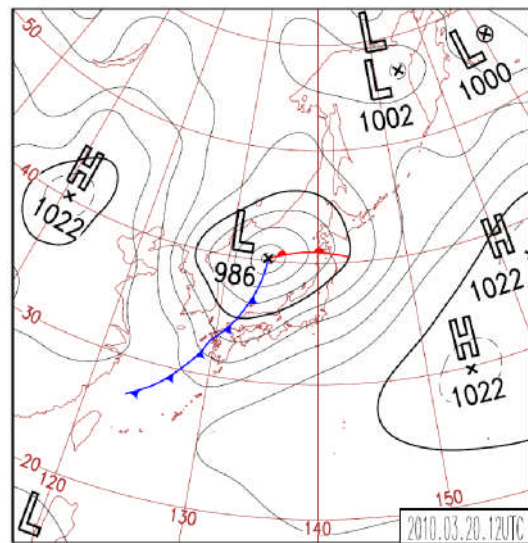
1. 概要

羽田空港では、瞬間風速(1日の最大)が50KT以上の強風となった日は、2000年以降2010年4月までの10年余りで25日ありました。第1図に分類しましたように、そのうち44%を占める11日が台風による強風でした。

一方、全体の25日のうち36%を占める9日は、寒冷前線前面の南西または南風による強風でした。このようなときは、日本海低気圧があって寒冷前線が南西にのび、羽田空港は、寒冷前線の進む前方に位置することが多くなっています。この南西または南風の強風の発生した9日間の時期を月別にみると、3月が4回と最も多く、11月が2回、ほか4月、6月、12月が各1回となっています。これから迎える3月と4月が9日のうち5日と過半数となっています。



第1図 瞬間風速50KT以上の日の気圧配置
(2000年~2010年4月)



第2図 南西強風日の気圧配置例
(2010年3月20日21時)

2. 南西強風の原因

第2図は、こうした南西風が強いときの典型的な気圧配置の例です。この3月20日21時には日本海に発達中の低気圧があって、低気圧の中心からのびる寒冷前線が、九州を経て東シナ海まで達しています。

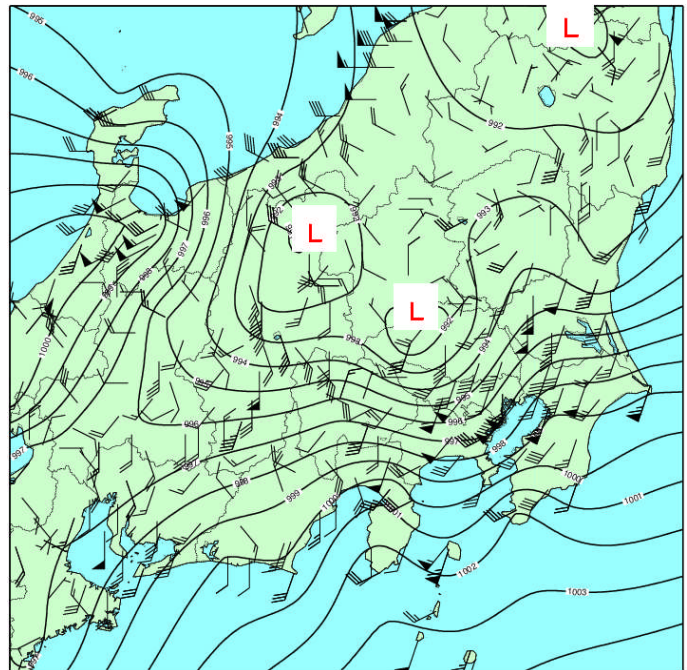
この寒冷前線は、南東進し、21日9時には房総半島付近に進んでいます。日本の南海上は東海上を中心とする高気圧に広くおおわれています。特徴的なことは東日本を中心に等圧線が混んでいることです。このために、南海上から日本海の低気圧に向かって南西や南

の風が吹きやすくなっています。

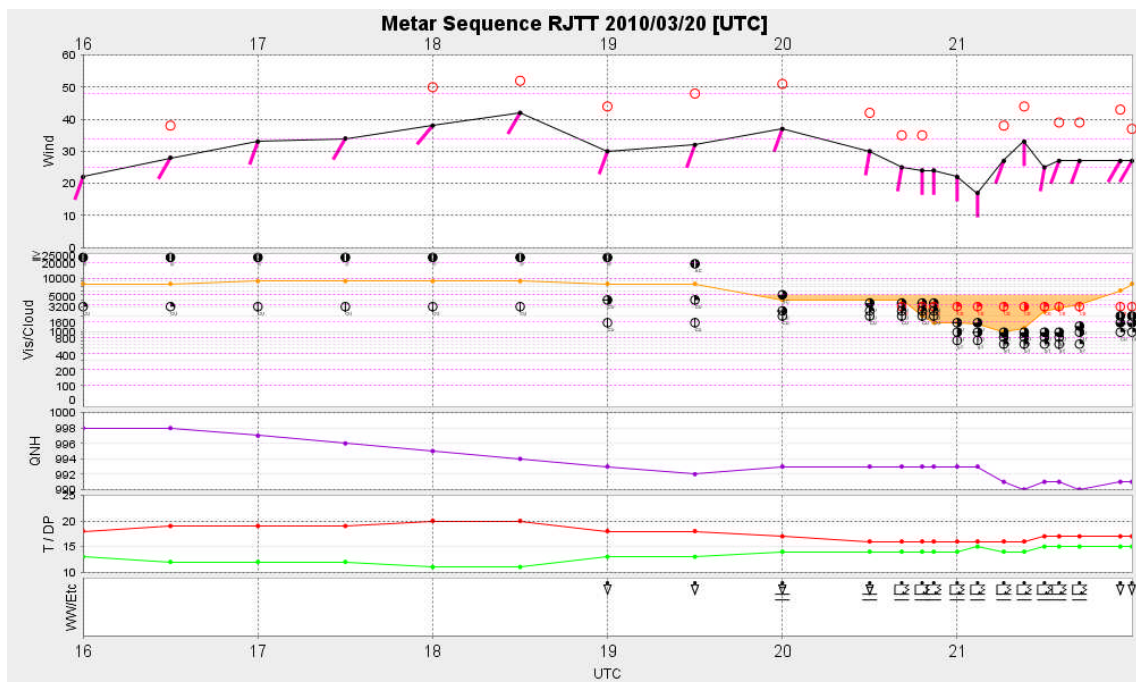
第3図は関東から東海・北陸地方にかけての天気図です。長野県北部や埼玉県秩父地方に小規模な低気圧があります。このうち埼玉県秩父地方の低気圧は、日本海低気圧に向かう南西風が、中部地方の地形（とくに高い山地）の影響を受けて発生したもので、関東地方の北部や西部に発生することがよくあります。この小さな低気圧によって、関東地方の南部は、特に等圧線が混んだ状態となっています。

このため、羽田空港など関東南部では、日本海低気圧や寒冷前線に向かう南西の風が、さらに強められているようです。第4図には、羽田空港の2010年3月21日の南西強風時のピーク前後の気象変化図を示しました。

このような日本海低気圧に伴う前線の接近・通過時には、強風や突風に十分注意が必要です。



第3図 東日本（関東，東海，北陸地方）の地上天気図
2010年3月21日03時
実線は等圧線、赤字のLは低気圧 各地点の矢羽根はアメダスの風向風速



第4図 羽田空港の気象変化図（2010年3月21日01時～07時）
上から1段目：風向風速、小円：瞬間風速、2段目：視程と雲底の高さ
3段目：気圧、4段目：気温と露点温度、5段目：気象現象

（東京航空地方気象台 予報課）

発行 東京航空地方気象台
〒144-0041
東京都大田区
羽田空港3-3-1

